

東レグループ瀬田 環境・社会活動報告書 2025



東レグループ瀬田各社

東レ（株）瀬田工場
東レエンジニアリング（株）瀬田工場
東レ・プレシジョン（株）

東レグループは、経営理念に基づく企業行動指針として「安全・防災・環境保全を最優先課題とし 社会と社員の安全と健康を守るとともに持続可能な社会の実現に貢献します」と掲げ、地球温暖化対策・省エネルギー、化学物質の排出抑制、廃棄物の削減・リサイクルなど、環境活動の充実に努めています。

当工場は1938年に繊維製品の生産を開始し、現在では生産のみならず、開発センターの機能をも併せ持った複合工場です。直面する環境問題に、レスポンス・ケア活動の一環として2000年9月に認証取得した「ISO14001」環境マネジメントシステムを通じ、今後も環境保全・環境改善に積極的に取り組んで参ります。

本報告が、東レ瀬田工場、東レエンジニアリング瀬田工場および東レ・プレシジョンの環境保全・環境改善活動について、皆さまにご理解いただく一助となれば幸いです。



東レ(株) 瀬田工場長
近池 知子

瀬田工場の概要

■所在地 〒520-2141 大津市大江1丁目1番1号
TEL: 077-544-3500 (代表)

■主な生産品 医療用具

■沿革

- 1937年 6月 瀬田工場建設
- 1938年 2月 スフ紡績・織布の生産開始
- 1952年10月 ナイロン・レーヨン混紡糸の生産開始
- 1957年12月 ナイロンタイヤコードの生産開始
- 1992年 8月 医療用具製造許可を取得し、生産開始
- 2000年 9月 ISO14001認証取得
- 2005年 4月 ISO14001 2004年版運用開始
- 2011年10月 E&Eセンター「環境エネルギー開発C 新エネルギー・ラボ」竣工
- 2017年 4月 ISO14001 2015年版運用開始
- 2018年 6月 人工気象室 テクノラマGⅢ 竣工
- 2020年 5月 羽毛リサイクル事業の生産開始

工場内の関係会社

東レエンジニアリング(株) ●FPD製造装置、半導体製造装置、フィルム製造・加工設備の製造・販売、検査・計測・分析機器、情報処理・CAEの製造・販売、FPCの試作・受託加工

東レ・プレシジョン(株) ●口金、精密部品、精密機器、微細金型などの製造・販売

東レグループの安全・環境に関する行動指針

東レグループは、安全・防災・環境保全を最優先課題とし、社会と社員の安全と健康を守るとともに持続可能な社会の実現に貢献します。

東レ（株）瀬田工場 環境方針

近畿の水瓶 琵琶湖に隣接する瀬田工場は、周辺環境との調和を常に意識し、企業行動指針「安全・防災・環境保全を最優先課題とし、社会と社員の安全と健康を守るとともに持続可能な社会の実現に貢献します」に沿って、以下の環境方針を策定し、推進します。

1. 環境に配慮した製品およびサービスの提供、並びに省エネルギーの推進、廃棄物の再資源化や削減等により、環境に優しい工場づくりに努めます。
2. 環境目標を設定し、その実現を図るとともに定期的に見直します。
3. 環境汚染予防および自然環境保護に積極的に関わり、持続可能な社会の実現に貢献します。
4. 環境関連の法規制および工場が同意した事項を順守します。
5. 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
6. 本方針は文書化した情報として維持し、工場で働く全ての人に周知徹底するとともに一般に公開します。



制 定 ： 1999年 4月27日
改訂1：2001年 2月 5日
改訂2：2005年 4月 1日
改訂3：2011年 4月26日
改訂4：2017年 4月18日
改訂5：2020年10月28日

瀬 田 工 場 長

環境保全への取り組み

■ ISO14001 認証取得

東レ瀬田工場および東レエンジニアリング瀬田工場は2000年9月8日付けで、また、東レ・プレジジョンは2003年8月29日付けで環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO14001」の認証を取得し、継続運用しています。2018年9月に2015年版へ移行した後も毎年、第三者機関による審査を受審し、2024年9月に登録更新しました。



ISO 14001
マネジメントシステム登録証

登録証番号：JQA-EM0991

登録事業者：
東レ株式会社
瀬田工場
滋賀県大津市大江1丁目1番1号

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 / JIS Q 14001 :2015

登録日：2000年 9月 8日
登録更新日：2024年 9月 8日
有効期限：2027年 9月 7日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構
東京都千代田区新大塚2-5
理事長 石井 裕 晶

Member of JQA



ISO 14001
付属書

登録証番号：JQA-EM0991 1 / 1

登録事業者：
東レ株式会社
瀬田工場

登録活動範囲：
・医療用具の製造、設計開発
・先端アクリル材料の設計開発
・環境・エネルギー分野（太陽電池部材、燃料電池部材、バイオマス資材、省エネ建材、空気浄化資材）の総合技術開発
・羽毛リサイクル加工

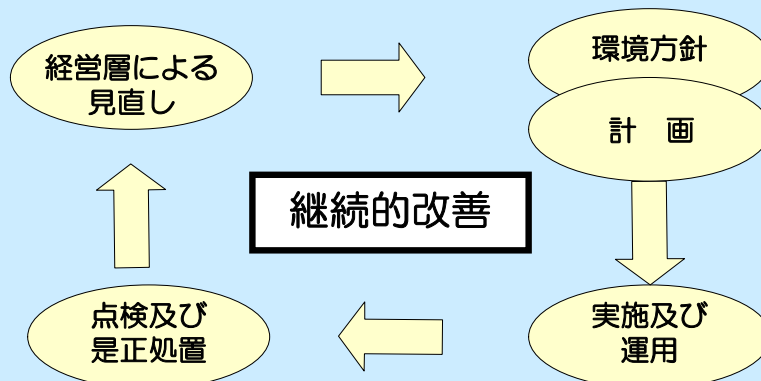
関連事業所：
・東レエンジニアリング株式会社 瀬田工場
滋賀県大津市大江1丁目1番45号
【精密組立用産業機械、計測機器の製造】
【FPC（フィルム基板）、PIエッチング液の製造】
・東レプレジジョン株式会社
滋賀県大津市大江1丁目1番40号
【合成繊維紡糸用口金、精密部品及び精密機器の設計・開発及び製造】

登録日：2000年 9月 8日
登録更新日：2024年 9月 8日
有効期限：2027年 9月 7日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構
理事長 石井 裕 晶

Member of JQA



上記のシステムを継続的に実施することによって、環境負荷の低減や環境事故の未然防止に努めます。

■水質汚濁防止

当工場の排水には、浅川、草川および大津市下水道へ流す3系統があります。河川放流排水の水質は大津市生活環境の保全と増進に関する条例に、下水道放流排水は下水道法によりそれぞれ厳しく規制されています。河川の汚濁指標となるBOD*¹等の各種法規制値に対して自主管理規制値を設けて規制値以下で水質を管理しています。

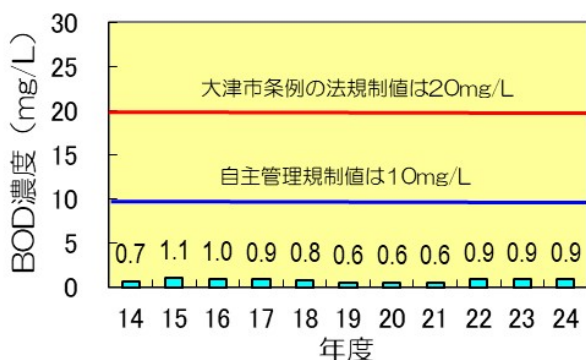
浅川・草川への排水口には、pHと油の異常警報装置および油分離装置を設置し、万一の場合に早期発見と公共水域への流出防止ができるようにしています。また、工場内排水路のマンホールは排水の種類毎に色分けし、流入経路の表示による徹底した管理を行っています。

加えて、異常排水を工場外へ流出させないように、定期的に排水異常対応訓練も実施しています。

* 1 : BOD (生物化学的酸素要求量)

河川の水質汚濁を示す指標であり、有機物が微生物により酸化分解されるときに必要な酸素量を表しています。

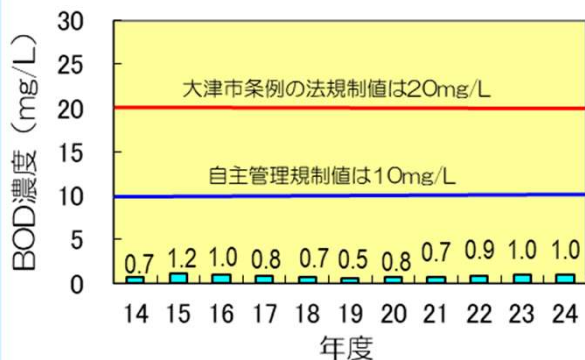
浅川の水質状況



排水異常対応訓練



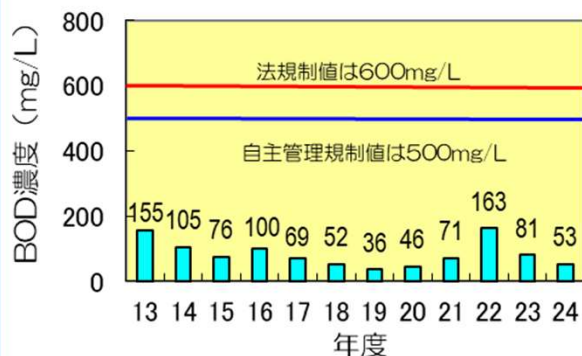
草川の水質状況



排水異常対応訓練



下水道の水質状況



排水異常時の中和装置(起動訓練)



■大気汚染防止

当工場では、大気汚染防止と温室効果ガス排出量削減の取り組みとして、貫流ボイラーの燃料転換（A重油 → 都市ガス）により、2008年度からは大気汚染物質の一種である硫黄酸化物（SO_x）の排出量をゼロにし、2024年度も排出量ゼロを継続しています。



貫流ボイラー

■化学物質の排出・移動量管理

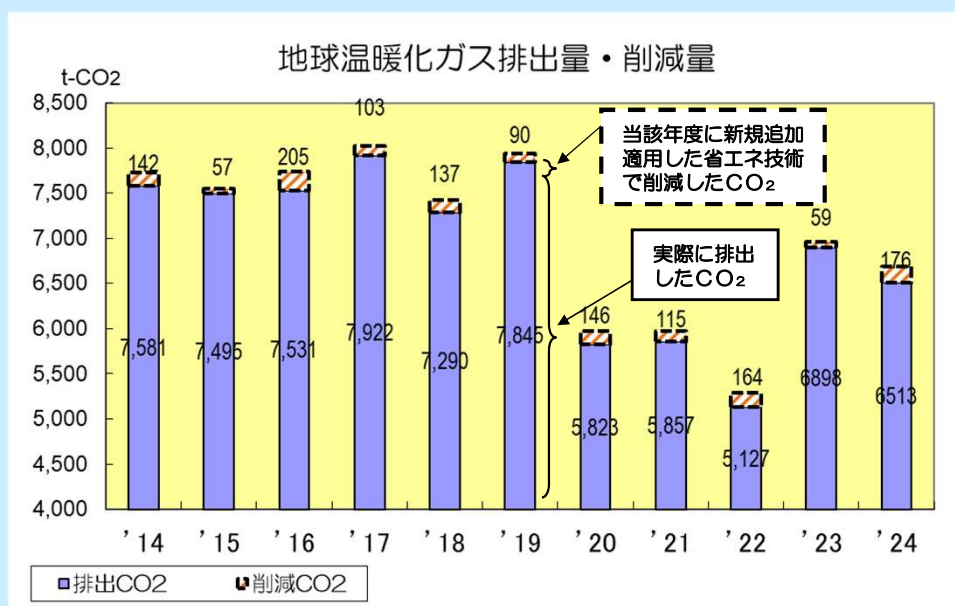
当工場で取り扱っているP R T R法対象物質は、特定第一種指定化学物質の酸化エチレン 1 物質のみです。当該物質については2003年6月に燃焼・無害化する設備を導入して除去しています。2024年度の当該物質の排出・移動量はゼロを継続しており、水域や土壌への排出もありません。

物質名	単位	大気への排出	水域への排出	工場外への移動	敷地境界線での濃度
酸化エチレン	kg/年	0	0	0	検出なし

■地球温暖化対策と省エネ（省エネルギー）推進

① 温室効果ガス排出量並びに削減量

東レグループでは、2018年7月に「東レグループサステナビリティ・ビジョン」を公表し、2030年度の温室効果ガス排出量売上収益原単位を2013年度対比30%削減することを目標に掲げて継続的な削減を推進しています。当工場においても、省エネ活動の推進等により温室効果ガス排出量を継続して削減してきております。2024年度温室効果ガス排出量は6,513トンとなりました。



② 省エネ設備投資と省エネ実績

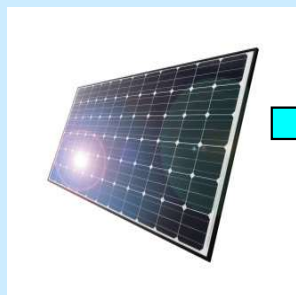
東レグループはグループを挙げて省エネに取り組んでおり、当工場でも省エネ推進委員会を組織し、目標達成に向かって省エネ診断、エネルギー使用量の把握、省エネ改善提案活動等を積極的に推進しています。これらの省エネ活動により2000年度以降、継続して省エネ目標を達成しています。

【太陽光発電実証設備と太陽光発電設備の稼働】

2018年3月に環境省間接補助事業として公益財団法人日本環境協会より交付された「2017年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用して設置した、約2,000枚の太陽光パネルからなる太陽光発電設備は、現在も安定稼働を続けており、2024年度の発電量は747MWh/年となりました。また、2011年からの太陽光発電実証設備、および2022年2月から第3工場屋上に新設設置した太陽光発電設備と合わせて、2024年度の総発電量は1,016MWhとなっています。

補助事業範囲

太陽光パネル
320W/枚×2,016枚

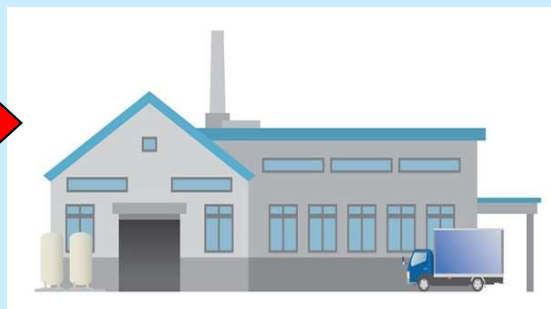


パワーコンディショナー
60kW/台×8台



発電量全量自己消費

約694MWh/年
CO2削減量：402t/年

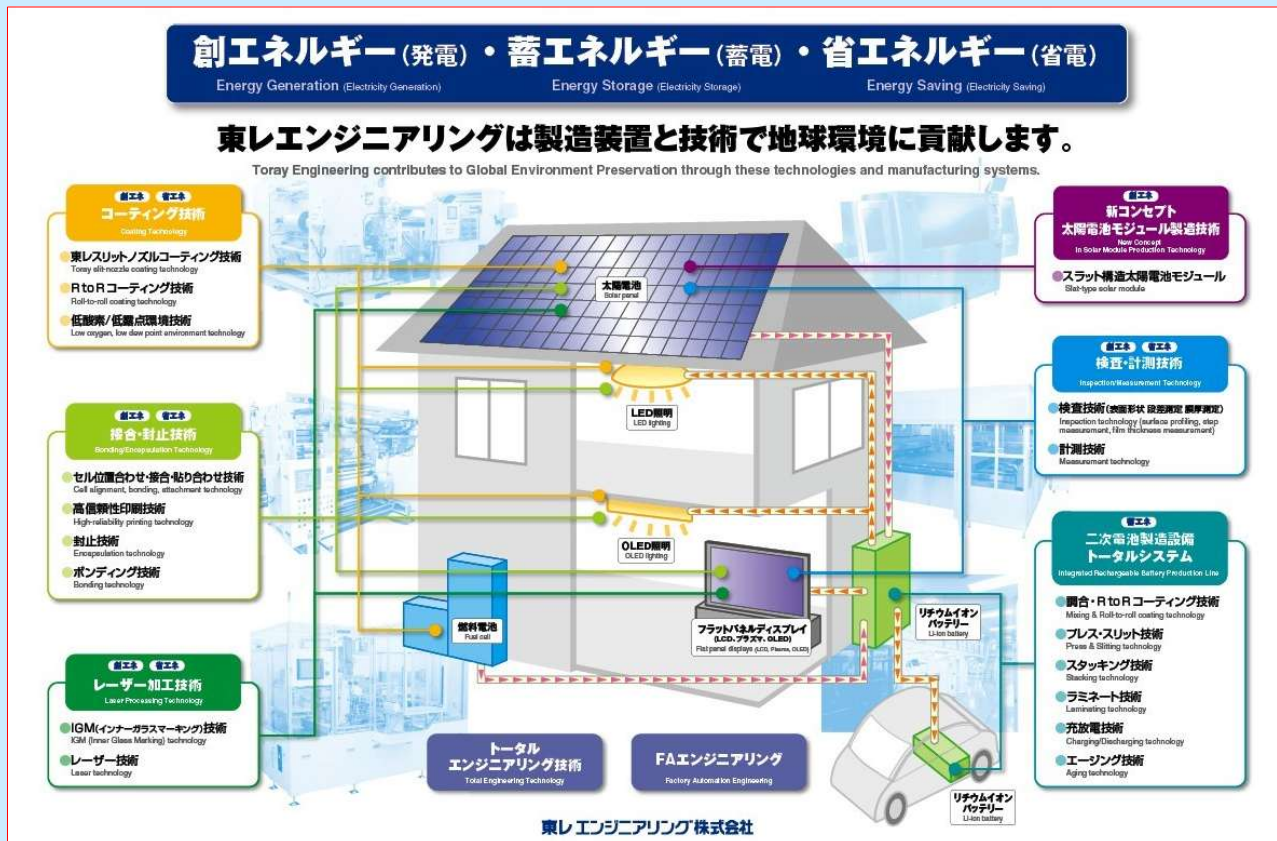


太陽光発電設備全景

③ 東レエンジニアリングでの省エネの取り組み

「東レエンジニアリングは製造装置と技術で地球環境に貢献します！」をスローガンに省エネルギー・創エネルギー・蓄エネルギーを実現する「環境エネルギー製造装置事業」に積極的に取り組んでいます。

技術・開発・営業一体となってクリーンエネルギーの普及を目指しています。



④ 東レ・プレシジョンでの省エネの取り組み

2024年度は工場内蛍光灯のLED化（107台）や生産効率化による設備稼働時間の短縮などの地道な電力使用量削減の取り組みを各種積上げて62トンの温室効果ガス排出量を削減をしました。

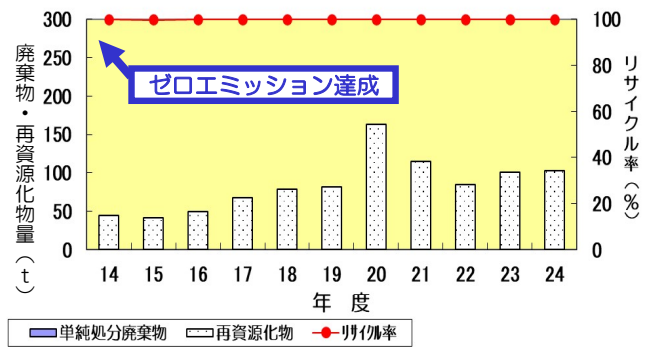


■廃棄物の削減

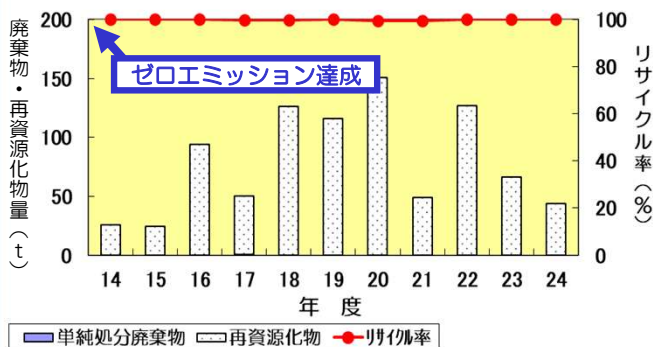
1999年度から計画的な廃棄物削減に努め、ISO14001の活動目標に挙げて、廃棄物の分別強化、再資源化を積極的に進めています。

東レ瀬田工場、東レエンジニアリング瀬田工場および東レ・プレジジョンの各社はともに「リサイクル率*2」をほぼ100%維持し、「ゼロエミッション*3」も継続達成しています。

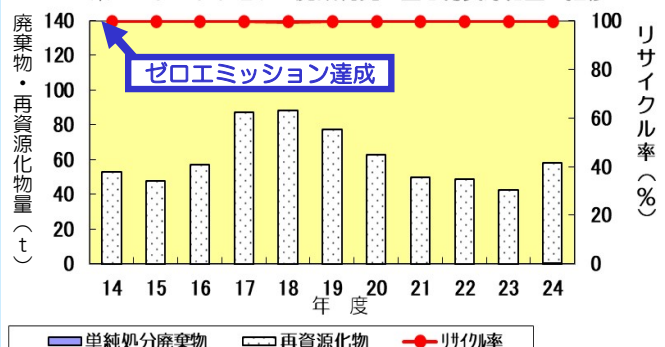
東レ瀬田工場 廃棄物発生量と再資源化量の推移



東レエンジニアリング瀬田工場 廃棄物発生量と再資源化量の推移



東レ・プレジジョン 廃棄物発生量と再資源化量の推移



*2：資源の有効利用を示す指標で、下式にて計算しています。

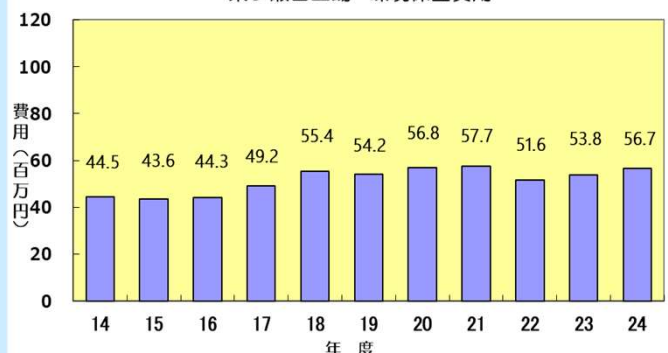
$$\frac{(\text{再資源化物} + \text{有価物})}{(\text{総廃棄物} + \text{有価物})}$$

*3：東レグループでは単純処分廃棄物が総廃棄物の1%以下と定義しています。

■環境保全費用

東レ瀬田工場では、環境負荷の低減に努め環境保全効果を上げるために、継続して環境対策を実施しており、2024年度の環境保全費用は56.7百万円となりました。

東レ瀬田工場 環境保全費用



■工場緑化計画

2014年5月に中長期的な緑地管理のため、以下の3項目からなる瀬田工場緑化計画を定め、地域の生物多様性保全に貢献しています。歴史ある城山周辺の緑地を良好な状態で維持します。

1. 東レ瀬田工場は、歴史ある城山周辺の緑地を今後とも良好な状態で維持するとともに、工場敷地内の準自然樹林、庭園型緑地の工場緑化を通じて、地域の生物多様性保全に寄与することを目指します。
2. 緑地面積率は今後も継続して現状（21%）を維持するよう努めます。
3. 将来、緑地の改変を伴う工場造成を行う場合においても、法令・地方条例を遵守するだけでなく、適切な緑地面積を確保し、地域環境に配慮した良好な緑地を整備し維持します。



安全・防災への取り組み

■安全活動

全国安全週間中の「安全大会」開催



労使合同での日常安全パトロール



危険予知トレーニング演練



やりにくい作業の見直し（作業実査）



3S活動（溝掃除）



3S活動（ペンキ塗り）



■防災活動

総合防災訓練



総合防災訓練(救助)



地域社会とのコミュニケーション



●淡海エコフoster

東レグループ瀬田では滋賀県が実施している淡海エコフoster活動に毎年参加し、近隣の周辺道路の清掃活動を行っています。



●地域避難・防災訓練

毎年冬に実施される近隣自治連合会の防災訓練ではグランド避難訓練、消火訓練および防災教育の場を提供しています。



●瀬田工場秋祭り

「労使共催 瀬田工場秋祭り」を近隣の自治会役員もお招きし、工場内で開催しました。あいにくの雨にも関わらず瀬田工場従業員とその家族含め509名の参加となりました。

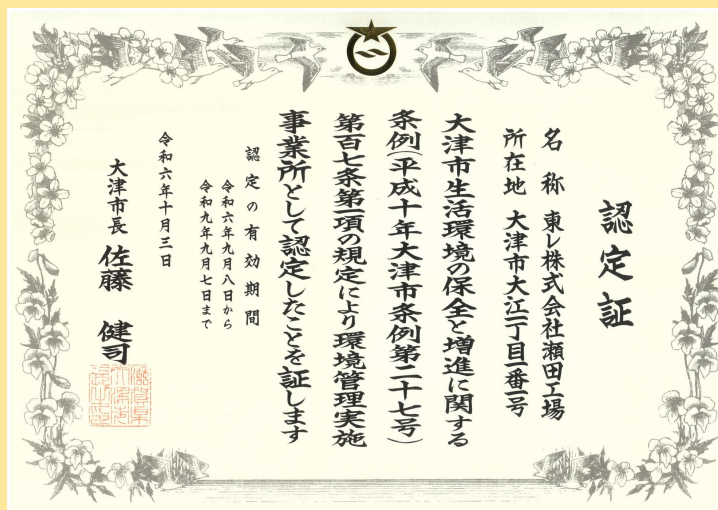


●地域小学校・工場見学

近隣小学校の5年生34名が来場し、工場の概要説明後、テクノラマや展示室を見学していただきました。児童から質問も寄せられ、興味を持って学習していただきました。

●環境管理実施事業所認定

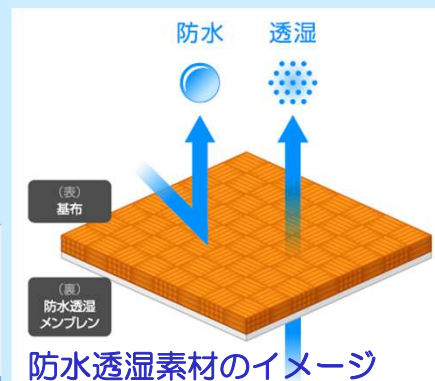
大津市生活環境の保全と増進に関する条例第107条第1項の規定により、一定の基準に適合する事業者の申請に基づき、大津市長が認定するものです。



■環境配慮型防水透湿素材「Dermizax™ HY」

Dermizax™シリーズは、織物などの基布と防水透湿性のメンブレンを貼り合わせた、糸・織・膜・裏材までこだわりぬいた東レが誇るJapan Madeの防水透湿素材です。Dermizax™シリーズの新製品ラインナップとして、有機溶剤不使用で紫外線で劣化しにくい独自のポリエステルメンブレンを搭載した『Dermizax™ HY』を開発しました。PFAS不使用の撥水加工も適用した環境にやさしい製品です。

Dermizax™ HYは防水性と透湿性に優れているため、アウトドアやスキーなどアクティブな状況に最適な製品です。

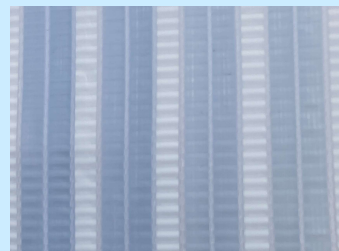


■農業用遮熱シート「クールネクスト™」

近年の温暖化傾向により、ビニールハウス内が高温となる夏季の作型については、農作物の品質低下や収穫量の減少が顕在化しています。特に、ハウストマトは夏季に裂果や着果不良といった高温障害が発生し、収穫量が減少する課題があります。当工場では、ビニールハウスに被覆することで農作物の光合成に必要な可視光を透過し、ハウス内気温を上昇させる赤外光は遮蔽する農業用遮熱シートを開発しました。

本シートの効果により、農作物の高温に対するリスクの軽減、およびハウス内作業従事者の熱中症リスクの回避・軽減等の労働環境の改善が期待されます。

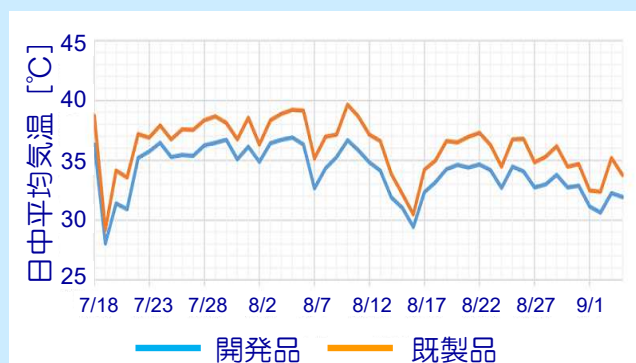
クールネクスト™



クールネクスト™展張状態（外観）



ハウス内の日中平均気温(6時～18時)の推移



実証試験条件

- ・ビニールハウス（石川県内）：間口6m×奥行20m
- ・期間：2023年7月18日～9月4日